

雪崩対策工等の被害状況調査の概要

災害研・雪氷グループ（和泉，河島）

1．調査目的

- ・雪崩対策工の損傷度の把握（雪崩危険度の把握と今冬に向けた対策の検討）
- ・溪流の閉塞状況の確認（融雪災害の検討）

2．調査日

2004 年 11 月 11 日

3．調査地域

県道 209（川口町向山～小高），国道 291（旧広神村～山古志村）

国道 352（旧広神村～山古志村，旧道も含む）

4．調査結果の概略

雪崩対策工

国道 291 と国道 352 において，旧広神村と山古志村の境界付近に，表層崩壊により雪崩予防柵が基礎ごと流されているもの，雪崩予防柵全体が破壊しているもの，雪崩予防柵の主柱が基礎から破断しているもの，基礎が露出しているもの，雪崩予防柵に土砂や樹木がたまっているものが多数みられた（写真 1，写真 2）。

溪流の閉塞

県道 209（川口町向山～小高，相川川）と国道 352（旧広神村と山古志村の境界付近，和田川）には，沿岸崩壊によって閉塞し，小規模な天然ダムが形成されている箇所が複数みられた（田地が冠水しているものもある）。一部では，応急対策として，溪流内に堆積した土砂・樹木等の除去や河道拡幅がなされていた（写真 3～5）。



写真 1 国道 291（旧広神村～山古志村）



写真2 国道 352 (旧広神村～山古志村)



写真3 県道 209 (向山～小高, 相川川)



写真4 国道 291 (旧広神村～山古志村)



写真5 国道 352 (旧広神村～山古志村, 和田川)